



辻井篤生 先生（東京学生寮寮監）  
栄里さん（主事）  
ATSUO TSUJII  
ERI

# 若人の命輝く未来を祈って 東京学生寮で御用



首都東京で学ぶ学生を、長きにわたり支えてきた金光教東京学生寮（東京都小金井市）。そこで寮監としての御用に就いて28年を迎えられた辻井篤生（つじい・あつお）先生と主事を勤める栄里（えり）さんご夫妻を、金光教東京学生寮にお訪ねしました。お二人に お話を聞かせていただくなかで、学生寮の学生たちは、寮での生活やボランティア活動を通じ様々なことを学んでいることが伺えました。

■ 取材：高井留美・進藤寛子・進藤好美

— 先生は御用に就かれてから28年になるそうですね。

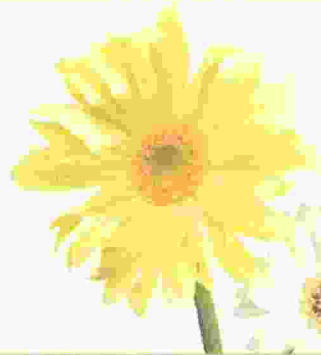
辻井篤生先生…当初は学生達と一回りほどしか歳が離れていなかったのですが、正直どんなふうに接していたのかと手探りのスタートでした。一緒に生活していくわけですから、学生達から嫌われたくないし、かといって厳しくすべきところは厳しくしなければと思っていましたから。だけどいつの間にかそうした気負いもなくなり、気がつくくと学生達からは親しみを込めて「つつさん」と呼ばれるようになっていました。

辻井榮里さん…私は、御用に就いた時は息子が1歳でしたから、子育て真っ只中でした。寮では月に二度月例祭があり、そのあと直会として食事会をしています。学生が2、3人で当番を決めて食事を用意するのですが、現在25人の学生が生活していますので、全員分作るのにはなかなか大変で、私も手伝っています。学生の半分は留学

生ですから彼らの母国料理が並ぶこともあり、月に一度、寮の中楽しいコミュニケーションの場所になっています。以前、子育てが忙しかった頃は、食事を終わらせたら子供たちを寝かしつけるのに私は早々に退散していました。主人は遅くまで学生と語り合っていました。が、子育てが終わった今は、私の方が遅くまで学生たちとのコミュニケーションを楽しんでいます。

辻井篤生先生…これまで一度だけ机を叩いて学生を叱ったことがありました。机にペンを置いていてそれがと叩いてしまったので手の平にペンの痕がくつきり腫れあがってしまいました。後からきつく言い過ぎたのではないかと反省しましたが、それから彼は変わりました。無事すっかりと大学を卒業してくれました。彼は卒業後数年経って寮を訪ねてくれて「あの時叱ってくれてよかった。目が覚めました」と言ってくれたので本当に嬉しかったですね。当時はこうしてやろうとか、言い聞かせてやろうとか

患者さんの  
長寿を目指して



◆糖尿病◆内分泌疾患専門

## 医療法人 江草玄士クリニック

医学博士 江草玄士

〒730-0013 広島県広島市中区八丁堀12番4号 八丁堀わかばビル  
TEL:082-511-2666 FAX:082-511-2665

ではなく、学生の心に本気で向き合いつつかっけていきました。その思いが学生たちにもしつかり伝わっていたのですね。

— 奥様は、ご自身の子育てと寮の御用が重なって大変だったとお聞きしましたが。

辻井栄里さん…下の娘が小学校5年生の頃でした、人を怖がるようになり、外に出られなくなり、親の目も見られず、突然倒れたり、取り乱してしまったりするようになり、昼夜逆転の生活と不登校が始まりました。

薫にもするがる思いで主人の母（金光教勝浦教会・和歌山）へお届けをし、お取次を願いました。後から聞いたことですが、私が夜電話でお届けをすると、それからご神前に座りぬき徹夜でご祈念をしてくれていたそうです。母の祈りもあつたからでしょうが、神様のお繰り合わせをいただいて素晴らしいスクールカウンセラーの先生に出会い、時間はかかりましたが学

校にも行けるようになりました。

娘が発病した当時を振り返ると、娘のためではなく私の都合で早く自立して欲しいという考えを娘に押し付け、親の見識を振り回すような子育てをしていました。病院の先生から「どんな娘さんもあなたの大好きな娘さんだと思ってください。存在そのものを受け止めてあげてください」と言われ、娘ではなく問題は私だったのだと愕然とさせられました。そんな娘も今では社会に出て、障害者就労支援の職に就いて、お役に立つ道を歩んでくれています。

こうした経験が寮の御用にも活かされていると思っています。突然学校に行けなくなった学生や、夜眠れずに大量の睡眠薬を飲むようになった学生、彼らも奇跡的にお繰り合わせをいただきましたが、彼らの異変に気付くことができたのは、自らの子育てを通じて学んだ経験があつたからこそだと思います。

— ところで、東京学生寮での学生

心と身体にやさしい内視鏡検査を求めて

医療法人 沖胃腸科クリニック

医学博士 沖 眞

〒730-0012 広島県広島市中区上八丁堀8番26号 メール八丁堀2F

TEL:082-223-0303 FAX:082-221-5292

さんたちの生活には、どのような特徴があるのでしょうか。

辻井篤生先生…ボランティア活動があります。さまざまな活動を行ってきましたが、現在続けている活動としては、東日本大震災により東京で避難生活を続けておられる方々を慰労するイベントに毎年参加しています。このイベントは生協主催のもと、色々な宗教団体がボランティアとして参加しており、東京寮からはテントの設営を始め模擬店の出店、イベント後の清掃まで行っていて、真面目に御用する東京寮の学生は、参加者や主催者からとても感謝されています。

東日本大震災に関わるボランティア活動は、当時、寮生の中に気仙沼出身の女子学生がいました。3月11日、彼女は妹と地震直後に連絡が取れ無事を確認したものの、連絡を終えた後に気仙沼が大津波に襲われ、それから全く家族との連絡が取れなくなり、自室にテレビを持たない彼女は、寮の集

会所で一人心配そうにテレビを見ていました。妻は心配してその子のそばに付き添っていました。すると翌日から一人また一人と学生が集まってきて、彼女を二人にしまいと一緒に彼女の家族の無事を祈るようにテレビの前に集いました。普段はほとんど参加することのない朝のご祈念にも、祈らずにはいられない思いからか、学生全員が参拝しました。一度、テレビに彼女の自宅の近くが映り、あまりに変わり果てた様子だったので、泣き崩れる彼女に、「一人の学生が「大丈夫、絶対大丈夫だから」と言うのです。私は驚きましたね、最悪の事態も考えていましたから。

ところが大変なおかけをいただいて、地震発生から4日後、家族全員の無事が報告されました。私は運転中でしたが、ついハンドルを放して大喜びしました。それから行動は早かったですね。学生達が率先して段取りをし、彼女の実家がある気仙沼へボランティアに向かいました。金光教気仙沼教会を拠点として周囲のボランティア

## 公認会計士・税理士 中瀬守事務所



(株)シーエスマネジメント (株)ピーアイネット

〒541-0051 大阪府大阪市中央区備後町3-4-8 フクエイビル2階 ☎ 06-6201-1403 ☎ 0120-805-108

【HP】 <http://www.csm-jp.com/> 【Mail】 [nakase@csm-jp.com](mailto:nakase@csm-jp.com)

活動を行う学生は、想像を絶する被災地の状況と被災された方の声に、毎日抱えきれない思いと共に作業を終えて帰ってきます。一日の終わりにそうした思いを共有する時間を作りました。皆が様々な思いを共有し、涙を流さずにいた日はなかったように思います。ほとんどが肉休労働ですから、体はへとへとはずなのに、翌朝5時には全員朝のご祈念をいただいて、一人ひとりがお結界でお取次をいただき、再びボランティアに向かっていきました。1週間から長い子で



気仙沼でのボランティア活動

2カ月近く。そして学生全員が二回りも二回りも成長して帰って来てくれました。

— 沖縄の戦没者遺骨収集にも参加されていましたが、これも寮の活動なのですか。

辻井篤生先生…昨年まで長く続けていた活動ですが、最初は私が一人で参加したことがきっかけでした。平和公園の観光客が行き交う直ぐそばの壕の中で初めてご遺骨を見つけた時、ここで本当に戦争があつたのだと肌で感じました。そしてその御霊様から「この惨劇は私で最後にして欲しい」と悲願の声を聞いたように感じました。それから寮に戻り、この経験を学生に伝えました。そして来年一緒に行ってみないかと声をかけると、2名の学生が翌年参加してくれました。帰ってきた学生がその経験を別の学生に伝え、来年は自分も参加したいという声に繋がりました。そこから毎年参加するようになりました。単に遺骨収集に参加す

## 夢と未来への創造 — 21世紀社会に貢献する —



関西福祉大学



関西福祉大学金光藤蔭高等学校



金光大阪中学校 金光大阪高等学校



金光八尾中学校 金光八尾高等学校

お道の学園 学校法人 関西光学園 〒569-8575 大阪府高槻市東上牧1-3-1 ☎ 072-669-6574 <http://www.konko.ac.jp>

るだけでなく事前に勉強会を開くようになり、沖繩戦の歴史とその背景をしつかりと学び参加していました。教科書で習ってきたこと、平和学習で教わってきたことでは知りえない経験がそこにあるのでしよう、遺骨収集を終えた彼らは全く違う表情で帰ってきます。

—若い学生にとってボランティア活動が成長の場になっているんですね。

辻篤生先生…よく今時の若者は何を考えているか分からないという声を聞きますが、こうしたボランティア活動を通じて分かったことがあります。あらゆる娯楽が巷には溢れかえっていますから、若者たちに娯楽をメインにしたイベントへの参加を促してもほとんど関心は示してくれません。しかし、ひたすら朝から晩までお祭りの裏方として水を運ぶような、一見地味で過酷なボランティア活動には嬉々として参加する学生が多いのです。ボランティア活動を通じてしか培えないものの価値を、今の若

者はしっかりと理解しています。

—これからのことも含めて、お二人は金光教東京学生寮にどのような思いをお持ちですか。

辻篤生先生、栄里さん…多くの若者と接してきた中で思うことは、「自分の命は自分一人のものではない。必要とされている命であるという事。その命をもつて、自らの情熱を熱狂的に瞬間的に沸かすこともできるがそれでは冷めやすい。だからこそ、必要とされていることを知り、あくまでも謙虚に、命の情熱をゆつくりじわじわと温めて欲しいと思います。命の元が神様であるということをしつかりと分かったうえで、情熱と謙虚さの両面をもって、命を輝かせて欲しい」。学生達には、神様のモノサシをもつて卒業して欲しいと願っています。そういう思いを込めて、これから御用させていただきますと願っています。

—ありがとうございます。

お客様に最高の満足をして頂くことを目指す買取専門店です

大切にされてきた  
お品物だからこそ  
真心を込めて

お取り扱いさせていただきます



# 光陽商事

カメラ・周辺機器

ブランド品

腕時計

貴金属・宝石

☎ 0120-00-6620

営業時間 10:00 ~ 18:00 (毎週月曜定休)

〒160-0017 東京都新宿区左門町 13-5 左門町パクスビル 3F

<http://koyo.co.jp/>